

## 中国電子オルガン専門教育のカリキュラム調査

中国音楽学院（北京）電子オルガン講師

東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学専攻音楽音響創造分野博士課程

張 亜達 ZHANG Yada

中国の電子オルガン専門教育は、1985年にヤマハ音楽振興会と中央音楽学院、上海音楽学院の二つの音楽学院が共同で設立した「ヤマハエレクトーン指導者養成コース」から始まる。1990年には、沈曉明が作陽音楽大学での留学を終えて瀋陽音楽学院に中国最初の四年制電子オルガン専門課程を開設し、そこで多くの後継者を育てた。電子オルガン専門教育の黎明期の特徴は、日本のヤマハ株式会社の電子オルガンの海外展開と沈曉明個人の業績であり、それが今日の中国における電子オルガン発展の原点である。

中国の電子オルガン専門教育の歴史は、三つの発展段階に分けることができる。第一段階（1985年～1990年）は、「ヤマハエレクトーン指導者養成コース」の教育システムが中国に導入された時期。第二段階（1990年～2003年）は、ヤマハの電子オルガン教育システムと中国で開発された電子オルガン教育システムとが融合された時期。第三段階（2003年～2016年）は、教育システムの普及によって電子オルガンが中国全土に及ぶ繁栄に至った時期である。歴史的に中国の電子オルガン専門教育の発展を調査し分析することはこれまであまり行われてこなかったが、資料が散逸する前に本格的な研究が必要である。

中国の全ての音楽学院（中国では11校のConservatory of Musicがある）の電子オルガン専門教育の現在のカリキュラムの調査・分析を行うことで、それぞれの音楽学院の特徴が明らかになり、専門教育としてどのような課題があるのか、また、そのためにカリキュラム上でどのような配慮がなされているのかが理解できた。現時点では、中国には電子オルガン教育のための学会が無く十分な情報の共有がなされているとは言えないが、2016年11月に創設された「全国電子オルガン教育連盟」がその役割を果たすことを期待したい。

現在の専門教育の課題の一例として、「全国電子オルガン教育連盟」全国音楽大学コンサートでの音楽学院と一般大学の音楽学部電子オルガン専攻のコンサートプログラムの比較から明らかになった事例をあげる。音楽学院における創作・編曲の教育レベルの発展と進歩が演奏曲目に反映されている一方、一般大学の電子オルガン専攻の学生が演奏するプログラムは、出版された楽譜を使うだけで創作や編曲による独自の表現にまで至っていない現状を知ることができた。このような教育機関のレベル格差を今度どのように埋めていくのかも大きな課題である。

現在の筆者のテーマは、「音響デザイン」と「中国伝統楽器とのアンサンブル」であり、勤務している中国音楽学院でのカリキュラムとコンサートにおける実践例をあげることで、その取り組みについて紹介する。